周産期からの虐待予防事業

ーハロー・ファミリーカード　プロジェクトー　実施要領

１．目的

子育てをスタートする母に対し、医療現場と保健現場のスタッフが協働して子育て支援に取り組み、育児不安の軽減や虐待予防を目指す。

２．対象

周産期医療機関・助産施設・保健機関

３．内容

別紙のとおり

４．実施主体（事務局）

あいち小児保健医療総合センター（保健室）

５．スケジュール

（１）導入前：事業説明

参加施設の確認

カード・デザインの決定

カード・ポスターの送付・配布依頼

（２）導入１年目以降

：次年度のカード必要枚数の確認と配布状況調査

カード・ポスターの送付・配布依頼

別紙

医療機関・助産施設と保健機関とが連携した地域の子育て支援ツール
ハロー・ファミリーカード　プロジェクト　について

◆システム導入の背景

１）2003 年度の先行調査結果から抽出された虐待予防の方策

・ 医療機関が必要性を感じた家族に保健機関へ連絡することについての同意を取るプロセスが重要
・ 医療機関が必要性を感じない場合でも、母から相談したい気持ちがある場合には、困難な問題を発見できる場合がある
・ これを広く広めるためには同意を取るプロセスへの支援ツール、ならびに母が医療機関・保健機関利用に興味を持つためのわかりやすいツールの開発が望ましい。

２）母乳育児の推進への方策

・ 母乳育児の継続には、多くの母のつまずきなどを相談したいタイミングがあり、これを支えるためのツールがあればより望ましい。
・ 相談できるところがあれば、母乳継続を支えることができるという前方視野的検討への活用。

３）連絡会議でのディスカッションによる医療機関－保健機関連携強化

・ カードや連絡票を利用する中で医療機関－保健機関が顔のみえる関係となる
・ 連絡会議の開催によって地域の母子保健の課題がみえてくる

◆子育て支援カード「ハロー・ファミリーカード 」のコンセプト

・ 子育てをスタートする女性（母）に、医療と保健が協働で安心を提供する。
・ カードは、子育て上の些細なことでも相談してよいという気持ちに母がなるための支援ツールである。
・ カードを渡すタイミングは、母子手帳交付（保健センター）、妊婦健診（病院）、母親学級（保）、退院指導（病）、各種健診（病、保）、家庭訪問（保）など
・ 相談先は、医療機関・助産施設、保健センター・保健所。

◆カードの内容

医療機関・助産施設・保健センター・保健所の名称と相談電話番号、相談時間など。

医療機関・助産施設が裏面に記載する保健機関名は、住所地または里帰り先が同保健所管内であればシールを添付する。管外の市町村については手書きで利用、または空欄のまま、母子手帳にて該当先を教える。

カードのメッセージ「あなたの子育てを応援します！」

困った時、イライラした時、迷った時、悩んだ時、親子の健康に関することなど
お気軽にお電話ください。

◆カードの運用方法

運用は、各医療機関・助産施設、保健機関で独自の方法でもよい。但し、その方向性の共通点を下に例示する。

１．どのようにして渡すのか？

医療機関・助産施設において看護師、助産師から直接母に手渡すことを原則とする。

出産で入院中の母や妊婦検診受診の母に対して、助産師・看護師から直接カードを手渡すステップを契機として、医療機関―保健機関連絡票の利用に繋げる。

医療機関・助産施設から連絡の必要を感じない場合でも、カードを利用して、保健機関利用の説明を行い、家族の希望があれば積極的に連絡票を活用する。

保健機関で渡す際には、医療機関・助産施設の情報は入れずに、保健機関利用の名刺代わりのような利用方法とする。

２．どんな人に渡すのか？

それぞれの施設で助産師、看護師、保健師が子育てに不安を感じて、相談機関をよりいっそう利用して欲しいと感じたすべての家族に渡す。

例）母親の気持ちが心配：子育ての不安、孤立、相談相手がなさそう、こころの病など
母親の暮らしが心配：経済的、生活状況が不安定など
赤ちゃんとの関係が心配：愛着の不安、子育てスキルが心配など
父母の関係が心配：暴力、面会がない、ひとり親など
子どもの発育や病気が心配ほか、気になるひとすべてにわたす。

保健機関等への連絡が必要と感じた場合には、カードを利用しながらケース連絡についての話も進める。

３．相談時間

各機関・施設ごとで対応できる時間をカードに明示する。

医療機関・助産施設については、産後〇ヶ月までと明示してもよい

４．ちらしの作成

ハロー・ファミリーカード プロジェクトの参加機関・施設を明示したちらしを作成し、参加機関に配付する。利用者への情報提供用ならびにプロジェクト参加機関・施設での関係職員の啓発に利用する。

◆ 事業の評価方法

事業のゴールは、母の子育てへの安心感の保証と虐待予防である。但し、これらを直接測定することは困難であるので、プロセスで評価をする。

１．渡した側の助産師・看護師へのアンケートまたは会議での語り合いから抽出

２．カード配布実績値の集計

３．連絡票の運用状況の集計

配布済みカード（例）

ダウンロード用カード

本カードは版権フリーとなっており、白紙部分はご自由に編集いただけます。
イラスト部分は著作権がありますので、変更しないようお願いします。
ロゴマークや文章などがイラスト部分に重ならないようご配慮ください。
使用に関するトラブルが生じた場合、あいち小児保健医療総合センターは一切の責任を負いません。

https://www.achmc.pref.aichi.jp/sector/hoken/information/famica.html

上記アドレスからお問い合わせの上、ご利用ください。